

教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では、日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう、継続的に指導することとし、課題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。

目的に合わせて書くことを選び、構成を考えて書く事例

- 1 学年 第5学年
- 2 単元名 活動したことを伝える文章を書こう「伝えよう、委員会活動」
- 3 単元の目標
 - (1) 報告の文章を書くために、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することができる。(書くこと)
 - (2) 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができる。(書くこと)
 - (3) 読み手に効果的に伝えるために写真や図表などを用いて書くことができる。(書くこと)
- 4 言語活動の充実の視点

視点1：読み手の興味を引くように、効果的な構成を考える。

視点2：交流活動を通して、読み手としての立場からの助言や感想を得ることで、リーフレットの内容や表現を見直す。
- 5 主な学習活動（全9時間）

段階	学習活動
第一次 (1)	○教材のねらいと学習の流れを確かめる。 ・教科書や身の回りにある例からリーフレット作りのイメージを持つ。
第二次 (7)	○報告する内容を決めて、構成を考える。 ・報告する事柄をメモに書き出す。 ・必要な情報や資料を選び、リーフレットのレイアウトを考える。 ○リーフレットを作る。 ・見出しや図表・グラフ・写真などの資料を用いて、読み手に分かりやすい構成の工夫を考える。 視点1 ・考えたレイアウトに沿って、必要な文章や資料を入れてリーフレットの下書きを完成させる。 ○違う委員会の児童とリーフレットの内容・構成について交流する。 ・交流を通して得た助言を基に内容や表現を見直す。 視点2
第三次 (1)	○「4年生に伝える会」を開き、委員会活動を報告するリーフレットを下級生に紹介する。

単元を貫く言語活動

- 当該単元で取り上げる指導事項を明確にし、単元を貫いた言語活動を位置付けましょう。
- 言語活動が、単なる活動ではなく、児童にとって自ら学び課題を解決していく過程となるようにしましょう。

授業づくりのステップ

「B 書くこと」例

- Step1：当該単元での重点指導事項を確定します。(例：自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える。)
- Step2：付けたい力にふさわしい言語活動を単元に位置付けます。(例：自分の課題について調べ意見を記述した文章を書く。)
- Step3：言語活動を遂行するのに必要な能力を明確化・具体化します。
- Step4：必要となる能力を身に付けるための指導過程を構築します。(例：導入の工夫、交流場面の設定など。)

評価の観点

- 「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の各観点で評価規準を設定しましょう。
単元の評価規準を設定する際は、当該単元で取り上げる指導事項を基に、言語活動を併せて設定しましょう。

教科目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入力し的確に記録する学習、それらを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習など言語活動の充実を図る。

互いの考えを伝え合い、自らの考えを発展させる事例

1 学年 第3学年

2 小単元名 人々のくらしと工場の仕事 ～かまぼこ工場～

3 小単元の目標

地域の生産に関する仕事について関心を持ち、自分たちの生活との関わりや生産・販売に見られる仕事の特色、他地域との関わりについて調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考える。

4 言語活動の充実の視点

視点1： 調べたり、まとめたりしたことを生かしながら、かまぼこ工場で働く人たちの工夫を「川柳」で表現する。

視点2： 「川柳」をペアや全体の場で紹介し合ったり、活用した資料を発表し合ったりしながら、工夫について考えを深める。

5 主な学習活動（全11時間）

段階	学習活動
つかむ (3)	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県の名産品である「笹かまぼこ」について知り、製造工程を予想する。 学習問題を作り、調べる観点や調べ方について話し合う。
調べる (5)	<ul style="list-style-type: none"> 各自が疑問に思う観点（作り方、安全、おいしさ、働く人、歴史、販売等）について、パンフレットや副読本等を活用しながら調べる。 かまぼこ工場を見学し、疑問に思うことを観察したり取材したりする。
まとめる (3)	<ul style="list-style-type: none"> 分かったことをまとめ、グループごとに全体の場で発表する。働く人たちの工夫を「川柳」で表現する。 視点1 自分の川柳を紹介し、作成に当たって参考にした資料やまとめたことなどを自分の言葉で説明する。 視点2 かまぼこのおいしさを知ってもらおうパンフレットを作る。

育成する資質や能力

- 調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにしましょう。
 - ・相手にも分かるように表現できるようにしましょう。
 - ・根拠や解釈を示しながら説明できるようにしましょう。

言語活動の充実のポイント

- 問題解決的な学習過程を大切にしましょう。
 - ・考え表現する場面が設定しやすくなります。
- 学習問題や発問を大切にしましょう。
 - ・社会的事象の特色や意味について考えられるようにします。
- 表現のさせ方を工夫しましょう。
 - ・言葉や文章のみの表現だけでなく「地図やグラフを活用しての説明」や「イラストや関係図をかけた説明」なども考えられます。

評価の観点

- 社会的事象から学習問題を見いだして追究し、その事象について思考・判断したことを「話す」「書く」といった言語活動などを通して評価することが大切です。

小学校 算数 言語活動の充実 指導のポイント

教科目標

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解するとともに、それらを適切に用いて、問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し合ったりする学習活動などを充実する。

児童の考えを基にして話し合い、考えを深める事例

- 1 学年 第5学年
- 2 単元名 小数のわり算
- 3 単元の目標
除数が小数の場合の除法の意味や計算の仕方について理解する。

4 言語活動の充実の視点

- 視点1： 課題解決に向けて、見通しを持ちながら、言葉や数、式、図などを用いて、分かりやすくノートにかく。(数学的な考え方)
- 視点2： 友達の考えを基に、関連性や有用性などの観点で話し合うことで、互いに学び合い、より良い考えを作る。(数学的な考え方)

5 主な学習活動(全13時間、本時2/13)

段階	学習活動
導入	1 本時の課題を知る。 300÷2.5 の計算のしかたを考えましょう。
	2 見通しを持つ。 視点1
展開	3 自力解決に取り組む。 ① わり算の性質から、どちらも10倍して考える。 3000÷25=120 答え 120円
	② わり算の性質から、どちらも2倍して考える。 600÷5=120 答え 120円
	③ 0.1を基にして考える。 300÷25=12 12×10=120 答え 120円
	4 集団解決に取り組む。 ・ 代表児童が考えを説明する。(②⇒①⇒③の順) ・ 考えの共通点や良さについて話し合う。 視点2
終末	5 整数÷小数の計算の仕方をまとめる。 整数÷小数はわる数を整数に直して計算する。
	6 適用問題に取り組む。
	7 学習感想を書く。

算数的活動の充実

- 算数科の目標にあるとおり、算数科では「算数的活動を通して」目標を実現することを目指しています。言語活動についても同様で、算数的活動の中に「表す活動」「説明する活動」などと例示されています。算数的活動の趣旨を理解し、言語活動の充実を図ることが重要になります。

考えを基に 学び合う活動の充実

- 言語活動を充実させるポイントは児童が発表して終わりにしないことです。出された考えを基に、関連性や有用性などの観点で話し合い、考えを深めることができるようにしましょう。

評価の観点

- 「数学的な考え方」の観点は、「児童が見通しを持ち、筋道を立てて考え表現したり、このことを基に考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けているか」ということです。言語活動を中心とした表現に関わる活動等を通じて評価しましょう。

教科目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

科学的な思考力・表現力の育成を図る観点から、学年や発達の段階、指導内容に応じて、例えば観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を充実する。

実験データを解釈し、集団で協議する事例

1 学年 第3学年

2 単元名 風とゴムで動かそう

3 小単元の目標

ゴムの伸び量と車が進む距離との関係について実験を通して調べ、調べた結果を正しく記録することができる。また、実験結果を基に整理した「分布図」を分析しながら、ゴムの性質や規則性を見いだすとともに、ゴムを伸ばす長さを調整して、ゴールインゲームを行うことができる。

4 言語活動の充実の視点

視点1： ゴムの伸び量と車が進む距離との関係を示した分布図を分析・解釈し、グループで作戦（予想）を立てる。

視点2： ゲームの結果と立てた作戦（予想）とを照らし合わせながら、ゴムの性質や規則性についての見方や考え方を深める。

5 主な学習活動（3時間扱い）

時間	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> 『ゴムの伸ばす長さを変えると、車が進む距離はどのように変わるだろうか』を学習問題に予想や実験の計画を立てる。 ゴムを伸ばす長さを変えながら、車が進む距離がどう変わるかを調べ（実験）、結果を記録する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 『ゴムの伸ばす長さを変えたときの車の進む距離を調べた結果を生かして、ゴールインゲームをしよう』を課題に、前時の実験結果を分布図に整理する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 分布図からゴムの伸び量と車が進む距離との関係や規則性を考え、グループで作戦（予想）を立てる。 視点1 グループの作戦を基にゴールインゲームを行う。 ゲームの結果と作戦（予想）を照らし合わせて 視点2 ゴムの性質や規則性について考察する。

理科における言語の役割

- 理科は、事象や体験から概念を形成していく教科です。観察、実験、栽培、飼育、ものづくり等の体験を経ながら具体を抽象化していきます。
- 言語を駆使しながら、具体から概念や法則を導いていく過程で科学的思考力・表現力が育成されます。

言語活動を充実させる主な場面

- 理科の言語活動は、問題解決の過程を経ることにより実現されます。
- その際、問題に対して、予想や仮説を持つ場面と観察・実験の結果から言えることを考察しまとめていく二場面で言語活動を充実させます。

評価の観点

- 言語活動を充実させることで、科学的思考力・表現力や問題解決の能力を育成します。
- 科学的思考力・表現力や問題解決の能力は「科学的な思考・表現」の観点で評価します。
- その際、主に観察・実験の前と後の二場面において、児童の考えを言語で表現させることが大切です。そして、表出した考えを評価します。

教科目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

身近な人々、社会及び自然とのかかわりや自分自身について考えたり、気付きの質を高めたりするため、活動や体験したことを振り返ったり、他者と交流したりするなどの学習活動を充実する。

自分の成長を振り返り、自らの成長に気付く事例

- 1 学年 第1学年
- 2 単元名 あしたへジャンプ！もうすぐ2年生
- 3 単元の目標

小学校に入学してからの1年間を振り返り、自分ができるようになったことや自分の成長を支える人がいたことに気づき、2年生に向けてより良い自分へ成長していこうとする気持ちを持つことができる。

4 言語活動の充実の視点

視点1： 自分が入学してからの1年間ですることができるようになったことや成長したことなどを絵や文に表し、その過程で友達と情報交換したりエピソードを話し合ったりする中で、自分の成長を実感し、これからの成長へ期待を持って意欲的に生活するようにする。

視点2： 自分を応援してくれたり、励ましてくれた人に対して感謝の気持ちを伝えるために手紙を書いたりお礼を言ったりすることを通して、感謝の気持ちを表現するようにする。

5 主な学習活動

○単元の展開（全18時間）

段階	学習活動
第一次 (3)	・入学したときから今までの学校生活について写真や作品を基に振り返り、自分の成長について考える。
第二次 (10)	・自分が成長した事柄について、教師や友達に伝えたい内容を考え、それを絵や文に表して冊子を作る。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">視点1</div>
第三次 (5)	・「ありがとう」の会を計画し、準備する。 ・お世話になった人を招待して『ありがとう』の会を行う。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 10px;">視点2</div>

言語活動と体験活動

- 言語活動を重視することで、体験を軽視しないようにしましょう。体験することで言葉も豊かになり、語いも増えてきます。体験活動が充実していくことが、言語活動の充実につながります。

「言語」の捉え

- 言語活動の充実を考える場合、「言語」を「表現」と捉えましょう。言語活動だからといって、文字言語や音声言語にとらわれるのではなく、絵、動作、劇化など子供たちの表現方法の多様性を考慮するようにしましょう。

評価の観点

- 生活科の評価の観点は、従前どおり三つの観点が設定されています。「活動や体験についての思考・表現」については、出来映えとしての表現ではなく思考の表れとしての表現と考えます。「思考」は内的な発想なので見えにくいいため、つぶやきや発言、行動、あるいは主体的に表現した絵や文などの「表現」で見取ります。「表現」だけを取り出して、その出来映えを評価しないように留意しましょう。

教科目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

表現や鑑賞の活動において、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る学習や、感じ取ったことを基に、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもって音楽表現したり、音楽全体を味わって聴いたりする学習を充実する。

感じ取ったことや表現したい思いなどを伝え合い、気付きを深める事例

1 学年 第4学年

2 題材名 日本の音楽に親しもう

3 題材の目標

- 日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、我が国や郷土の伝統音楽に親しむようにする。
- 日本の音楽の特徴を感じ取りながら、味わって聴いたり、合奏の表現を工夫し、音を合わせて演奏したりするようにする。

4 言語活動の充実の視点

- 視点1：楽曲を聴き比べ、リズム、旋律、拍の流れなど、感じ取った特徴の違いを意見交換して、楽曲の良さや面白さを理解し、味わって聴いている。(鑑賞の能力)
- 視点2：楽曲のリズム、旋律、拍の流れ、歌い方などの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さなどを感じ取りながら、表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図を持っている。(音楽表現の創意工夫)

5 主な学習活動(全5時間)

段階	学習活動
第一次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ソーラン節」と「南部牛追い歌」を聴き比べ、それぞれの特徴を感じ取る。 ・二曲を聴き比べて感じ取ったこと、気付いたことを意見交換する。 ・出された意見を整理して板書し、それを基に 視点1
第二次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・前次まで聴き取った民謡と照らし合わせて、「こきりこ」を聴く。 ・「こきりこ」の歌詞や歌い方、楽器の特徴などの気付きを発表し合う。 ・気付いた特徴の意見を基に、民謡の歌い方を工夫して歌う。 ・「デデレコデン」の部分を歌やリコーダーで重ね合わせてみる。 ・グループごとに楽曲に合ったリズム伴奏を工夫してつくる。 ・グループごとにリズムや拍の流れを感じ取りながら、つくったリズムや選んだ楽器の音を 視点2

表現の学習において

- 考え方や気付きを言葉で伝え合うことに終始するのではなく、その意見を基に実際に歌い比べたり演奏したり、表現の仕方をいろいろ試して音楽表現を深めていくことを大切にしましょう。

鑑賞の学習において

- 感じ取ったことを適切な言葉など(体の動き、絵、音と関連付けた方法も含む)で表し、楽曲の特徴や演奏の良さを考え、自分なりの意味を見いだすことになげましょう。ただし、言葉に表すことが目的化することなく、最後は、楽曲(音楽)そのものをしっかり味わって聴くことを大切にする学習展開にしましょう。

音楽的なコミュニケーションについて

- 自分が感じ取ったことを言葉で表し、友達と意見交換をすることにより、友達の感じ方に気付いたり、自分の感じ方を広げたりする学習展開も工夫しましょう。

評価の観点

- 「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」は、音楽科における思考・判断・表現に係る観点として位置付けます。
- 「音楽表現の創意工夫」では、音楽的な感受性に基つきながら、音楽表現を工夫し、どのように音楽で表すかについて思いや意図を持っている状況进行评估しましょう。
- 「鑑賞の能力」では、音楽的な感受性に基つきながら解釈したり価値を考えたり、それを言葉で表すなどして、音楽の良さや美しさを味わって聴いている状況进行评估しましょう。

教科目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

表現や鑑賞の活動において、形や色、材料の感じ、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉えながら、感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどの学習活動を充実する。

形や色などについての気づきを深める事例

- 1 学年 第4学年
- 2 題材名 カードで味わう、形・色
- 3 題材の目標



絵の具などを用いて、好きな色を選んだり、いろいろな形をつくったりしながら表すとともに、形や色について感じたことを話したり、友人の話の聞いたりしながら作品を見ることを楽しむ。

4 言語活動の充実の視点

視点1： 「アートゲーム」を行うことを通して、形や色、イメージなどについて考える。(鑑賞の能力)

5 主な学習活動(全2時間)

時間	学習活動
導入 (0.5)	○「言葉カード」をつくる。 ・思い付いた言葉をカードに記入し、「言葉カード」をつくる。
展開 (0.5)	○「言葉カード」から思い付いた形や色の感じを、「形・色カード」に表す。 ・言葉から思い付いた形や色の感じを、色紙などを切り取ったり、絵の具で描いたりして、「形・色カード」に表す。
まとめ (1)	○「アートゲーム」を行う。 ・自分たちで方法を工夫しながら、「絵合わせ」「言葉合わせ」などの「アートゲーム」を行う。 ・「アートゲーム」のルールは柔軟に考え、自分が感じたことを話したり、友人の話の聞いたりする活動がより充実するようにする。



視点1

【共通事項】の視点

○ 指導計画の作成に当たっては、【共通事項】を視点に、図画工作科で育てようとする資質や能力を具体的に育成するような言語活動の充実を工夫することが重要です。

表現の活動では

○ 発想や構想の能力、創造的な技能を高めるために、考えたことを伝え合ったり、形や色、材料の感じを生かして表現したりする学習を一層重視するようにしましょう。

鑑賞の活動では

○ 鑑賞の能力を高めるために、感じたことや思ったことを話したり、友人と語り合ったりしながら、材料による感じの違い、表し方の変化を捉え、作品などの良さや美しさを感じ取るような指導を充実させましょう。

評価の観点

○ 表現の活動の表したいことや用途などについて考えたことを伝え合ったりする学習活動は、「発想や構想の能力」の観点で評価します。鑑賞の活動の感じたことや思ったことを話したり、友人と語り合ったりする学習活動は、「鑑賞の能力」の観点で評価しましょう。

教科目標

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にしている心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

言語を豊かにし、知識及び技能を活用して生活の課題を解決する能力を育む観点から、衣食住などの生活の中での様々な言葉を実感を持って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために、言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実する。

実感を伴って理解し考察したことをレポートにまとめ、発表し合う事例

1 学年 第5学年

2 題材名 おいしいみそ汁をつくろう B(3)アイエオ

3 題材の目標

みそ汁のテイスティングを通して、だしの効果やだしの種類による特性に気づき、おいしいみそ汁の調理計画を工夫して調理することができる。

4 言語活動の充実の視点

視点1： みそ汁のテイスティングを通して気付いたことを言葉で表現し合ったり、DVDを視聴したりして分かったことを実習レポートにまとめる。

視点2： 調理実習を振り返り、上手くいった点や反省点、気付いたこと、これからの生活で工夫して生かしたいことをレポートにまとめ、発表し合う。

5 主な学習活動（全6時間）

段階	学習活動
第一次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・だしの無いみそ汁といろいろな種類のだしを使ったみそ汁を試飲し、気付いたことを自分の言葉で表現し合い、レポートに記録する。 ・だしの取り方のDVDを視聴し、だしの取り方といろいろなだしの特徴をレポートにまとめる。 視点1
第二次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・にぼしだしで、どのグループも同じ実を使ってみそ汁をつくる。
第三次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでだしと実を工夫し、調理計画を立てる。 ・計画に従い、みそ汁と前題材で学習したごはんの調理をする。
第四次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を振り返り、反省点や気付いたこと、これからの生活に工夫して生かしたいことをレポートにまとめ、発表し合う。 視点2

家庭科における言語活動

- 生活の様々な事象を、実感を伴った生きた言葉として理解することで、人が生活を営むことの良さやその価値に触れ、生活の感性を高めていくことができます。
- 考えたり説明したりする活動により、生活をより良くしようとする意欲や生活で活用する能力などを身に付けることができます。

言語活動充実のポイント

- 実践的・体験的な活動の前後の言語活動を工夫しましょう。
- 観察する観点を明確にして予想したり、感じ取ったことや結果について考察したりしたことなど、考えた過程が分かるレポートの記入欄を工夫しましょう。
- 問題解決的な学習の各学習過程で、言葉や図表、概念などを用いて自分の考えを説明したり、表現したり、話し合ったりする活動を充実させましょう。

評価の観点

- 考えたり工夫したりしたことを図や言葉でまとめたり、発表し合うなどの表現に係る活動を、「生活を創意工夫する能力」の観点で評価します。

教科目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を養うとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

コミュニケーション能力を育成したり、論理的思考力を育んだりする観点から、ゲームや練習などにおける励ましや協力をすること、及び練習方法や作戦を考えたり、成果を振り返ったりするために話し合う活動などを充実する。また、健康・安全に関する知識を活用する学習活動を充実する。

友達との関わりを深め、課題解決を目指すことを通して技能の向上を図る事例

1 学年 第6学年

2 単元名 バスケットボール（ボール運動 ゴール型）

3 単元の目標

バスケットボールに進んで取り組み、ボール操作やボールを受けるための動きを高めるとともに、自分たちの力に応じてルールや行い方を工夫してゲームを楽しむことができるようにする。

4 言語活動の充実の視点

視点1：動きのポイントを踏まえてアドバイスしたり、目当ての達成に向けて互いの良い動きを認め合い、励まし合ったりする。
（コミュニケーション能力の育成）

視点2：ゲームを通して学んだことや話し合ったことを基に課題を持ち、解決を目指して練習方法を選んだり、工夫したりする。
（論理的思考力の育成）

5 主な学習活動（全12時間）

段階	学習活動
第一次 (4)	<p><ねらい1> パス、ドリブル、シュートなどを使って、易しいルールでゲームを楽しむ。</p> <p>・ボール操作の基礎練習 ・オープンスペースを使って攻めるミニゲーム</p> <p style="text-align: right;">視点1</p>
第二次 (4)	<p><ねらい2> 攻め方や守り方を工夫して、ゲームを楽しむ。</p> <p>・動くエリアを制限したミニゲーム ・攻撃サイドでの人的優位を生かした戦術を選択し、課題を持って練習する。</p> <p style="text-align: right;">視点2</p>
第三次 (4)	<p><ねらい3> 自分たちの作戦を立てて、ゲームを楽しむ。</p> <p>・チーム総当たりによるバスケットボール大会 ・自分たちの特徴や相手の力に応じて作戦を立て、兄弟チーム同士でゲームを見合い、その成果を話し合う。</p>

「運動領域」では

- 身体表現やゲーム場面での意思疎通などの集団的活動で互いに励まし合ったり、相手チームの健闘をたたえたりして、協力して学び合う学習活動を行います。
- 資料を基に練習方法や作戦を考えて教え合ったり、成果や課題について話し合ったり、学習カードにまとめたりする学習活動を行います。

「保健領域」では

- 実習や実験などを実施した際の観察や体験を基に話し合いを行い、考察し、身近な生活における課題や解決の方法を見付けたり、選んだりする学習活動を重視します。
- 健康に関わる概念や原則を基に、自分の生活と比較したり、身近な生活との関係を見付けたりしたことを説明するなどの学習活動を重視します。

評価の観点

- 技の出来映えを確かめ合ったり、ゲームでの課題解決を図ったりする学習は、「運動についての思考・判断」の観点で、互いに役割分担を決め、協力し合って意欲的に練習に取り組もうとする様子は「運動への関心・意欲・態度」の観点で評価を行います。

教科目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

- 外国語でのコミュニケーションを通して、その楽しさを体験し、言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さに気付かせ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- 体験的に外国語を聞いたり、話したりすることを通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるとともに、日本語との違いを知ることで言葉の面白さや豊かさ等に気付かせる。

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する事例

1 学年 第6学年

2 単元名 “Hi, friends 2” Lesson 8 What do you want to be?

3 単元の目標

- 【関】友達と将来の夢について積極的に伝え合おうとする。
- 【慣】就きたい職業を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- 【気】世界には様々な夢を持つ同年代の子どもがいることを知る。また、英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを知り、言葉の面白さに気付く。

4 言語活動の充実の視点

視点1：第4時の「夢宣言クイズ」に自信を持って取り組むために、第1時から様々なゲームを行い、職業に関する英語表現に慣れ親しむ。

視点2：自分の就きたい職業のヒント(パイロットなら sky, fly, jet など)を言い、自分が何になりたいかを友達に当ててもらふことで、「聞く」「話す」必然性のある活動を行う。また、卒業を間近に控え、互いの夢を伝え、励まし合うことで、温かい人間関係を築く。

5 主な学習活動(全4時間)

時間	学習活動
1	・ジェスチャーゲーム、ポインティングゲーム、キーワードゲーム、ビンゴゲーム、チャンツ、Let's Listen 等で様々な職業の言い方に慣れ親しむ。また、英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを知る。
2	
3	・Let's Play に取組み、友達の前で夢についてインタビューする。 ・「夢宣言クイズ」のヒントを準備する。
4	・Activity に取組み、同年代の子どもの様々な夢を知る。 ・「夢宣言クイズ」に取組み。

視点1

視点2

活動設定の配慮事項

- 次の四点に配慮して活動を設定しましょう。
 - ① 聞く・話す必然性があること。
 - ② 話すことで、より理解できる活動であること。
 - ③ 児童が話したいと思う内容であること。
 - ④ 相手を考えた活動であること。

ALTの積極的活用

- ALTなどのネイティブ・スピーカーを積極的に活用し、外国語でのコミュニケーションの楽しさや、通じ合う喜びを経験させましょう。

評価の観点

- スキル向上を目標としていないことを踏まえ、見取った児童の良さを文章で記述して評価します。本事例では、各時間に次の観点について()の方法で評価します。
 - 【第1時】慣れ親しみ(観察)
 - 【第2時】気付き(発言、振り返りカード)
 - 【第3時】慣れ親しみ(観察)
 - 【第4時】関心・意欲・態度(観察)

道徳の時間の目標

道徳教育の目標に基づき、各教科等における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

自分の考えを基に、書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫する。

自分と異なる考えや思いに接することができるように工夫した事例

- 1 学年 第3学年
- 2 主題名 みんなのもの みんなの場所
(文部科学省資料：「ひどいよね」)



- 3 ねらい
約束や社会の決まりを守り、社会生活の中で守るべき公德を大切にしようとする態度を養う。

4 言語活動の充実の視点

視点1：立場が逆転し、「ひどいよね」と言われてはじめて自分の行為を振り返る主人公の気持ちを捉えさせるため、役割演技を取り入れる。すぐには素直になれない気持ちなど、様々な価値観に触れることで道徳的価値の自覚を深めさせる。

5 主な学習活動

段階	学習活動
導入	○みんなの使うものや場所が壊されたり汚されたりしているのを見た経験を話し合う。
展開	○資料を読んで話し合う。 ・主人公はどんな気持ちで「ひどいよね。」と言ったのか考える。 ・「ひどいよね。」と自分が言われたとき、主人公がどんな気持ちになったのか、役割演技を通して話し合い、様々な価値観に触れる。 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">視点1</div>
終末	○これまでの自分を振り返る。 ・周りの人のことを考えて大切にしている約束や決まりにどんなものがあるか経験を話し合う。 ○教師の説話を聞く。 ・児童がマナーを守って気持ちが良かったという話を聞く。

自分の考えを基に表現する機会の充実

- 話し合いは、道徳の時間に最もよく用いられる指導方法です。話し合いを深めるためには、児童それぞれに自分の考えを持たせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要です。

何について考えるのかを指導者が明確に示すことや日頃から何でも言い合える学級の雰囲気をつくること、自分とは異なった考えに接する中で学習が深まることを日頃から実感させておくことなどが大切です。

評価の方法

- 道徳性の評価は、教師と児童との心の触れ合いを通して共感的な理解に基づくものにしていくことが大切です。その意味で、児童の自己評価を促す観察や会話、作文やノートなどの記述や質問紙等の方法を適切に生かすように努める必要があります。

道徳の時間においては、指導のねらいとの関わりにおいて児童の心の動きの変化などを様々な方法で捉え、自らの指導を評価し、改善に努めることが大切です。

小学校 特別活動 言語活動の充実 指導のポイント

特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動を充実する。

体験活動を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視する。

体験したことをまとめ、伝え合う力を育てる事例

- 1 学年 第5学年
- 2 行事名 集団宿泊学習を有意義にしよう
- 3 行事の目標 集団宿泊学習を通して、自然や文化に親しむとともに、基本的な生活習慣や公衆道徳などの体験を積み、お互いを思いやり、ともに協力し、支え合うなどの望ましい人間関係を育てる。
- 4 言語活動の充実の視点
視点1：キャンプファイヤーでの出し物について話し合う活動（思考・判断・実践の能力）
視点2：体験したことを言葉でまとめ、発表する活動（思考・判断・実践の能力）
- 5 主な学習活動（2泊3日）

段階	学習活動
事前の活動	<ul style="list-style-type: none">・ 集団宿泊学習の意義や目的について理解する。・ 集団宿泊学習での自己目標を決定する。・ キャンプファイヤーでの出し物について話し合う。 <div style="text-align: right;">視点1</div>
実践	<ul style="list-style-type: none">・ 山登り、ウォークラリー、キャンプファイヤー、野外炊飯を協力してやり遂げる。・ 活動中に感じたことや気付いたことをメモする。・ その日の活動のまとめをしおりに記入する。
事後の活動	<ul style="list-style-type: none">・ 体験したことを振り返り、感じたことや気付いたことなどを集団宿泊学習のまとめとして文章で書く。・ まとめた文章を基に、お互いに感じたことや気付いたこと、周りの人たちへの感謝の気持ちなどを発表し合う。 <div style="text-align: right;">視点2</div>

留意事項

- 体験活動は、協力や思いやり、責任などの大切さを実感できる場です。しかし、まとめをしっかりと行わないと学びのない活動だけで終わってしまうこともあるので、事後の活動もしっかりと行いましょう。

言語活動の充実のポイント

- 文章でまとめるだけでなく、自分の思いを自分の声で発表し、相手に伝える活動は大切です。
また、聞く側の態度を指導することで、伝え合う活動が更に充実したものになります。

評価の観点

- 様々な活動の中で出てくる課題を解決していくための自己の行動の在り方について考え、判断し、周りの人たちと協力して実践しているかという観点で評価しましょう。

総合的な学習の時間の目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにする。

情報を分析・評価し、論述する事例

- 1 学年 第5学年
- 2 単元名 見つめよう！守ろう！〇〇川
- 3 単元の目標

〇〇川の観察や調査を通して、〇〇川には多くの生き物や植物などが生息していることや川の汚染の原因を知り、地域の一員として〇〇川の自然を守っていかうとする。

4 言語活動の充実の視点

- 視点1： 〇〇川の上流と中流の川のような映像から、異なる二箇所の川のような違いについて話し合わせ、課題を設定する。
- 視点2： 上流と中流の水質や生息している生き物の調査等の結果をマップに整理し、具体的な違いやその原因について話し合う。

5 主な学習活動（40時間）

段階	学習活動
第一次 (23)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーから、川に生息する魚や鳥、植物の話聞き、〇〇川への関心を高め、実際に中流の観察を行う。(5) ・上流と中流の違いがあることに気付き、それぞれについて実際に調査を行い、違いを調べる。(15) 視点1 ・異なる二箇所の調査結果から、違いの原因を分析する。(3) 視点2
第二次 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇川の豊かな自然を守っていくために、どんな取組がされているかを調べる。(3) ・川の自然を守っていくために自分たちにできることを考え、実践する。(7)
第三次 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇川についてまとめたことや環境保全のために取り組んだことを基にリーフレットを作成したり、地域や保護者の方々に報告したりする。(7)

探究のプロセスと言語活動

- 総合的な学習の時間の目標を実現するためには、以下の探究のプロセスを意識することが必要です。
【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】
- 探究のプロセスには、体験活動と言語活動を適切に位置付けます。
- その際、主に以下の二場面において、言語活動を充実させましょう。
 - ・体験したことや収集した情報を整理したり、分析したりして思考する場面
 - ・他者に伝えたり、自分の考えをまとめたりする場面

他者と協同して取り組む学習活動と言語活動

- 探究のプロセスにおいては、他者と協同して問題を解決する学習活動を重視します。
- 協同して問題を解決する学習においては、言語活動の充実を図ることにより、以下のような価値を生み出すことが大切です。
 - ・多様な情報の入手によって分析や考察の質を高める。
 - ・異なる考えを持つ他者を尊重し、自らの役割を自覚する。
 - ・力を合わせたり交流したりすることの大切さや喜びを実感する。